

地方独立行政法人下関市立市民病院
令和3年度（第10期事業年度）に係る
業務実績に関する評価結果

令和4年(2022年)8月



下 関 市

目 次

1. 評価者及び評価委員会の意見聴取	・・・	1
(1) 評価者	・・・	1
(2) 評価委員会に対する意見聴取	・・・	1
地方独立行政法人下関市立市民病院評価委員会 委員名簿		
2. 評価を実施した経過	・・・	1
3. 評価の実施方法	・・・	2
(1) 項目別評価の方法	・・・	2
(2) 全体評価の方法	・・・	3
4. 評価結果	・・・	5
(1) 全体評価	・・・	5
(2) 大項目評価	・・・	8
第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上 に関する事項	・・・	8
第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項	・・・	10
第4 財務内容の改善に関する事項	・・・	11
第5 その他業務運営に関する重要事項	・・・	13
(3) 小項目評価	・・・	14
・地方独立行政法人下関市立市民病院 令和3年度（第10期 事業年度）に係る業務実績に関する評価結果 [小項目]		

〈参考資料〉

○貸借対照表、損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書

1. 評価者及び評価委員会の意見聴取

(1) 評価者

下関市長

(2) 評価委員会に対する意見聴取

病院の業務実績の評価等においては、専門性及び客観性の確保が求められることから、下関市では、地方独立行政法人法第11条第2項第6号の規定に基づき、地方独立行政法人下関市立市民病院評価委員会（以下「評価委員会」という。）の所掌事務として、下関市長（以下「市長」という。）が行う業務実績の評価等について、評価委員会に対し意見聴取が行えるよう、地方独立行政法人下関市立市民病院評価委員会条例に規定しており、市長が実施した、地方独立行政法人法第28条第1項の規定に基づく地方独立行政法人下関市立市民病院（以下「法人」という。）の令和3年度に係る業務実績に関する評価について、評価委員会に対し意見聴取を行った。

地方独立行政法人下関市立市民病院評価委員会 委員名簿

	氏名	役職等
委員長	飴山 晶	一般社団法人下関市医師会 会長
委員	伊藤 ひろ子	下関商工会議所女性会 副会長
	佐々木 直隆	株式会社佐々木総研 会長
	杉浦 勝章	下関市立大学 教授
	田中 康代	山口県看護協会下関支部 支部長

2. 評価を実施した経過

- (1) 6月21日 法人から市長に業務実績報告書の提出
- (2) 7月5日 業務実績報告の内容について市長から法人にヒアリング
- (3) 7月21日 市長が行った評価結果(案)について評価委員会に対し意見聴取
～28日 【書面開催】

3. 評価の実施方法

「地方独立行政法人下関市立市民病院に対する評価の基本方針」及び「地方独立行政法人下関市立市民病院の年度評価実施要領（以下「年度評価実施要領」という。）」に基づき、「項目別評価（小項目評価・大項目評価）」及び「全体評価」により評価した。

なお、令和3年度の評価については、新型コロナウイルス感染拡大による業務実績の影響の度合いにより、必要に応じて項目別に影響を考慮して評価することとした。

(1) 項目別評価の方法

項目別評価は、はじめに法人において自己評価を行ったのち、小項目評価を行った上で大項目評価を行う。

① 小項目評価

年度計画に記載されている「小項目」ごとに、法人の自己評価に対する検証及び目標設定の妥当性等について、市長が法人へのヒアリング等により総合的に実施し、次の評価基準により5段階で評価した。

【評価基準】・・・(法人の自己評価基準も同様)

区分	進捗の度合い (判断基準(目安))
5	年度計画を大幅に上回って実施している。 (年度計画を達成し、明らかにそれを上回るレベル)
4	年度計画を上回って実施している。 (年度計画を達成したレベル)
3	年度計画を順調に実施している。 (年度計画を下回るが、支障や問題はないと考えるレベル)
2	年度計画を十分に実施できていない。 (年度計画を下回り、支障や問題があると考えられるレベル)
1	年度計画を大幅に下回っている。 (年度計画から著しく乖離したレベル又は未着手状態)

② 大項目評価

「小項目評価」の検証結果等を踏まえ、中期計画に掲げた次の4つの「大項目」ごとに中期目標及び中期計画の達成に向けた業務の進捗状況・成果を次の評価基準により5段階で評価した。

【大項目】

- 第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
- 第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項
- 第4 財務内容の改善に関する事項
- 第5 その他業務運営に関する重要事項

【評価基準】

区分	達成状況
S	中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。 (特に認める場合)
A	中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。 (全ての小項目が3～5)
B	中期計画の達成に向けておおむね計画どおり進んでいる。 (3～5の小項目の割合が9割以上)
C	中期計画の達成のためにはやや遅れている。 (3～5の小項目の割合が9割未満)
D	中期計画の達成のためには重大な改善事項がある。 (特に認める場合)

(2) 全体評価の方法

「項目別評価」の結果を踏まえ、中期目標、中期計画及び年度計画の進捗状況全体について、業務の実施状況、財務状況及び法人のマネジメントの観点から総合的に評価を実施した。

●地方独立行政法人法

第十一条 設立団体に、地方独立行政法人に関する事務を処理させるため、当該設立団体の長の附属機関として、地方独立行政法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）を置く。

2 評価委員会は、次に掲げる事務をつかさどる。

一 第八条第四項、第二十五条第三項、第二十八条第四項、第三十条第二項、第四十二条の二第五項、第四十四条第二項、第四十九条第二項（第五十六条第一項において準用する場合を含む。）、第六十七条第二項、第七十八条第四項、第七十九条の二第二項、第八十七条の八第四項又は第八十七条の十第四項の規定により設立団体の長に意見を述べること。

二 第七十八条の二第一項の規定により第六十八条第一項に規定する公立大学法人（次号において「公立大学法人」という。）の業務の実績を評価すること。

三 第七十八条の二第四項の規定により公立大学法人に勧告すること。

四 第八十条第二項の規定により同条第一項に規定する関係設立団体の長に意見を述べること。

五 第一百二十二条第二項の規定により同条第一項に規定する関係設立団体の長に意見を述べること。

六 その他この法律又は条例の規定によりその権限に属させられた事項を処理すること。

3 評価委員会は、前項第一号、第四号又は第五号の意見を述べたときは、その内容を公表しなければならない。

4 第二項に定めるもののほか、評価委員会の組織及び委員その他の職員その他評価委員会に関し必要な事項については、条例で定める。

（各事業年度に係る業務の実績等に関する評価等）

第二十八条 地方独立行政法人は、毎事業年度の終了後、当該事業年度が次の各号に掲げる事業年度のいずれに該当するかに応じ当該各号に定める事項について、設立団体の長の評価を受けなければならない。

一 次号及び第三号に掲げる事業年度以外の事業年度 当該事業年度における業務の実績

二 中期目標の期間の最後の事業年度の直前の事業年度 当該事業年度における業務の実績及び中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績

三 中期目標の期間の最後の事業年度 当該事業年度における業務の実績及び中期目標の期間における業務の実績

2 地方独立行政法人は、前項の評価を受けようとするときは、設立団体の規則で定めるところにより、各事業年度の終了後三月以内に、同項第一号、第二号又は第三号に定める事項及び当該事項について自ら評価を行った結果を明らかにした報告書を設立団体の長に提出するとともに、公表しなければならない。

3 第一項の評価は、同項第一号、第二号又は第三号に定める事項について総合的な評定を付して、行わなければならない。この場合において、同項各号に規定する当該事業年度における業務の実績に関する評価は、当該事業年度における中期計画の実施状況の調査及び分析を行い、その結果を考慮して行わなければならない。

4 設立団体の長は、第一項第二号に規定する中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績に関する評価を行うときは、あらかじめ、評価委員会の意見を聴かなければならない。

5 設立団体の長は、第一項の評価を行ったときは、遅滞なく、当該地方独立行政法人に対して、その評価の結果を通知し、公表するとともに、議会に報告しなければならない。

6 設立団体の長は、第一項の評価の結果に基づき必要があると認めるときは、当該地方独立行政法人に対し、業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずることができる。

◆地方独立行政法人下関市立市民病院評価委員会条例

（所掌事務）

第2条 委員会は、法の規定によりその権限に属させられた事項を処理するほか、次に掲げる事務をつかさどる。

(1) 法第26条第1項の認可に関し、調査審議し、市長に意見を述べること。

(2) 法第28条第1項の評価（同項第2号に規定する中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績に関する評価を除く。）に関し、調査審議し、市長に意見を述べること。

4. 評価結果

(1) 全体評価

はじめに、2年以上にわたる新型コロナウイルス感染症流行下において、第二種感染症指定医療機関として、感染患者の治療及び感染防止対策に寄与していることに深く敬意と感謝の意を表す。

地方独立行政法人化後10年目となった令和3年度は、第3期中期計画期間2年目としての年度計画を掲げ、新型コロナウイルス感染症による影響を受けつつも、中期目標及び中期計画の達成に向け、急性期医療を担う下関地域の中核病院として、市民のニーズに応じた医療を提供するため、様々な取組が行われ、市民の健康維持及び増進に寄与してきた。

「市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」においては、地域医療支援病院として、院内を含む地域の医療従事者に対し、COVID-19についての研修会6回を含む計14回の研修会を行い、地域のかかりつけ医との連携強化を図り、地域医療へ貢献したことは大いに評価できる。

さらに、令和2年2月から新型コロナウイルス対策本部を設置し、保健所との連携を密にして、第二種感染症指定医療機関及び新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、下関地域における感染防止対策に大きく貢献しているほか、感染症に対する職員の意識醸成や連携医療機関との情報共有にも努めており、評価できる。

また、DPC※1の包括請求に大きく影響する機能評価係数Ⅱ※3について、0.1369と前年度から0.0173ポイント増加し、DPC標準病院群の全国1,501病院（令和2年度1,519病院）の中で80番目（令和2年度104番目）と順位を上げたことは高く評価できる。

教育・人材育成については、医療対話推進者の資格を2名の職員が取得したほか、クリティカルケア分野の認定看護師の資格を1名の職員が取得するなど、各医療現場での人材育成に努めたことは評価できる。

「業務運営の改善及び効率化に関する事項」においては、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価の更新認定を得るため、療養環境の整備や各種手順や基準の整備等、病院全体で医療の質改善活動に取り組んだ結果、前回より高い評価をもって認定証の交付を受けたことは大いに評価できる。今後も、組織全体の運営管理及び医療の質改善に努めていただきたい。

「財務内容の改善に関する事項」においては、医学管理料について、算定率の向上のため検討を行い、計画を作成し実践した。DPCにおいては、「後発医薬品使用体制加算」を類上げすることで、機能評価係数 I ※2 を上げることができ、収益の向上に貢献できたことは評価できる。引き続き、健全かつ安定した経営を維持するため、収益の確保を図っていくことを期待する。

また、新型コロナウイルス感染症に大きく影響を受ける中において、「病床稼働調整会議」を中心にベッドコントロールの強化を図ったことにより、令和2年度の稼働率を上回ることができたことは評価できる。

予算、収支計画及び資金計画においては、入院収益及び外来収益を含め、医業収益は増加したが、新型コロナウイルス感染症に係る補助金は3億1千7百万円の減となった。また、人件費及び材料費の増加により医業費用は増加した。これらの要因により、損益ベースで赤字計上となった。令和元年度の医業収益と比較すると、9億9千8百万円の減となっており、令和3年度においても、新型コロナウイルス感染症が収支に影響した結果となったが、今後も引き続き、資金保有額を注視して留保資金の確保に努めることを期待する。

「その他業務運営に関する重要事項」においては、市内の医療従事者に対する新型コロナワクチンの集団接種時の医師・看護師の派遣協力など、下関保健所等と連携した新型コロナウイルス感染症への対応を昨年度に引き続き行うとともに、市から下関感染対策チームへの派遣要請を受け、他施設への感染管理認定看護師の派遣を行ったことは高く評価できる。引き続き、下関医療圏の新型コロナウイルス感染症の対応について、中心となって実施していただくことを期待する。

以上、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、市立病院としての役割を果たしながら、業務の改善・経営の効率化に取り組んでいることから、総合的に評価した結果、令和3年度の業務実績に関する大項目評価については、4項目全てA評価（計画どおり）となった。

よって、令和3年度業務実績の全体評価は、

「中期目標及び中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。」とした。

最後に、第3期中期目標の期間の2年目である令和3年度の評価結果を十分に踏まえ、第3期中期計画に掲げた目標を達成するために、病院運営の更なる改善に努められ、より一層市民から信頼される病院となるために積極的な取組

を期待するものである。

【大項目評価の結果】

大項目	評価	
第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	A	計画どおり進んでいる。
第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項	A	計画どおり進んでいる。
第4 財務内容の改善に関する事項	A	計画どおり進んでいる。
第5 その他業務運営に関する重要事項	A	計画どおり進んでいる。

※1 DPC

DPC制度（DPC / PDPS：急性期入院医療を対象とした診療報酬の包括評価制度）のこと。診療報酬の額は、DPC（診断群分類※）ごとに設定されている包括評価部分と出来高評価部分の合計額

※ 診断群分類：入院期間中に医療資源を最も投入した「傷病名」と、入院期間中に提供される手術、処置、化学療法等の「診療行為」の組合せにより分類された患者群のこと。

$$\text{診療報酬額} = \left[\begin{array}{c} \text{【包括評価部分】} \\ \text{DPC 毎の} \\ \text{1日当たり点数} \end{array} \right] \times \text{在院日数} \times \text{医療機関別係数} + \text{【出来高評価部分】}$$

$$\text{医療機関別係数} = \text{基礎係数} + \text{機能評価係数 I} + \text{機能評価係数 II} + \text{激変緩和係数}$$

※2 機能評価係数 I

医療機関の人員配置や医療機関全体として有する機能など、医療機関単位での構造的因子を評価する係数。医療機関別係数（参照：「※1 DPC」図）を構成する係数

※3 機能評価係数 II

診療実績や医療の質向上への貢献などに基づき、医療機関が担うべき役割や機能を評価する係数。医療機関別係数（参照：「※1 DPC」図）を構成する係数。

(2) 大項目評価

第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

① 評価結果

A評価 (中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。)

② 判断理由

本項目については、年度計画の記載33項目全てが評価区分「3」～「5」の評価であることから、年度評価実施要領に基づき、「中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。」と判断し、「A評価」とする。

【小項目評価の集計結果】

分野	評価対象 項目数	評価結果ごとの項目数				
		5.大幅に上回 っている	4.上回ってい る	3.順調に実施 している	2.十分に実施 できていない	1.大幅に下回 っている
市民病院が担う役割	18	2	4	12		
患者サービスの向上	8	2	4	2		
医療提供体制の充実	6		4	2		
医療に関する調査及び研究	1			1		
合計	33	4	12	17		

③ 大項目中の主な事項

(i) 特筆される実施事項については、次のとおりとする。

※小項目評価が「5」(年度計画を大幅に上回って実施している。)の項目を中心に選定「項目番号」とは、63項目ある小項目の通し番号を指す。(以下、同様)

ア 急性期病院としての機能の充実(項目番号:1) 評価:5

多職種が参加するDPCコーディング委員会を年5回開催し、適切なコーディングについての検討を行った。令和4年度の機能評価係数Ⅱは0.1369と前年度から0.0173ポイント増加し、DPC標準病院群の全国1,501病院(令和2年度1,519病院)の中で80番目(令和2年度104番目)と順位を上げた。

イ 感染症指定医療機関としての対応（項目番号：18） 評価：5

昨年度に引き続き、感染防止対策加算1及び感染防止対策地域連携加算を届け出た連携医療機関と年4回の合同カンファレンスと2回の相互ラウンドを実施し、感染防止対策に関する情報共有等を行うとともに、地域の医療従事者に対しては、地域医療研修会として「COVID-19」についてのオンライン研修会を6回実施した。また、第二種感染症指定医療機関及び新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、他病院からの相談などに対応した。

ウ 医療安全管理体制の充実（項目番号：20） 評価：5

病棟の配薬環境の改善や、各マニュアルの見直しを行った。全職員に実施した医療安全対策加算1の施設基準に基づく院内研修会に加え、臨床倫理に関することや、働き方改革に向けた意識を育成するための研修会など、外部講師による院内研修会を開催した。

エ 患者サポート体制の充実（項目番号：21） 評価：5

医療対話推進者を養成するため、昨年度から医療対話推進者養成セミナーを受講していた2名が、基礎編の受講を終え資格を取得した。また、入院支援センターでは、予定入院患者に対する入院支援実施率100%を達成した。

オ 医師確保に係る取組（項目番号：27） 評価：4

令和3年度は糖尿病内科の常勤医を確保したことにより、新たに日本糖尿病学会認定教育施設（認定教育施設Ⅱ）に認定された。その結果、令和4年4月からは、更に2名の糖尿病内科の常勤医を確保することができた。

カ 認定看護師の育成（項目番号：32） 評価：4

令和2年度から継続してクリティカルケア分野（特定行為研修付）の認定看護師教育課程に1名を派遣し、令和3年度に資格を取得した。

(ii) 指摘事項 なし

第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項

① 評価結果

A評価 (中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。)

② 判断理由

本項目については、評価16項目全てが評価区分「3」～「5」の評価であることから、年度評価実施要領に基づき、「中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。」と判断し、「A評価」とする。

【小項目評価の集計結果】

分野	評価対象 項目数	評価結果ごとの項目数				
		5.大幅に上回っている	4.上回っている	3.順調に実施している	2.十分に実施できていない	1.大幅に下回っている
運営管理体制の充実	13	1	6	6		
やりがいを持てる病院づくり	3		3			
合計	16	1	9	6		

③ 大項目中の主な事項

(i) 特筆される実施事項については、次のとおりとする。

- 外部評価等の活用 (項目番号：38) 評価：5

新型コロナウイルス感染症の影響により、1年延期となっていた病院機能評価認定更新の受審に向け、病院機能評価受審準備委員会を中心に、病院全体で質改善活動などに取り組んだ結果、令和3年度の審査において、改善要望事項なく認定証の交付を受けることができた。

(ii) 指摘事項 なし

第4 財務内容の改善に関する事項

① 評価結果

A評価 (中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。)

② 判断理由

本項目については、評価13項目全てが評価区分「3」～「4」の評価であることから、年度評価実施要領に基づき、「中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。」と判断し、「A評価」とする。

【小項目評価の集計結果】

分野	評価対象 項目数	評価結果ごとの項目数				
		5.大幅に上回っている	4.上回っている	3.順調に実施している	2.十分に実施できていない	1.大幅に下回っている
安定した経営基盤の確立	2			2		
収益の確保	8		3	5		
経費の適正管理	1			1		
計画的な施設及び医療機器の整備	2			2		
合計	13		3	10		

③ 大項目中の主な事項

(i) 特筆される実施事項については、次のとおりとする。

- ・ 医療の質及び患者満足度の向上 (項目番号：53) 評価：4

算定率向上活動について、「リハビリテーション総合計画評価料」「認知症ケア加算2」の2テーマの活動を実施することができた。また、DPCにおける機能評価係数Iを計画的に上げるための取組を行い、「後発医薬品使用体制加算2 (係数：0.0013)」から「加算1 (係数：0.0014)」へ類上げすることができた。

- ・ 安定した経営基盤の確立 (項目番号：63) 評価：3

令和2年度との比較では、入院収益及び外来収益を含め、医業収益は増加したが、新型コロナウイルス感染症に係る補助金は3億1千7百万円の減となった。また、人件費及び材料費の増加により、医業費

用は増加した。これらの要因により、損益ベースで赤字計上となった。また、資金ベースでは、令和3年度末には前年度末を上回る資金残となった。令和元年度の医業収益と比較すると、9億9千8百万円の減となっている。

(ii) 指摘事項 なし

第5 その他業務運営に関する重要事項

① 評価結果

A評価 (中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。)

② 判断理由

本項目については、評価1項目が評価区分「4」の評価であることから、年度評価実施要領に基づき、「中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。」と判断し、「A評価」とする。

【小項目評価の集計結果】

分野	評価対象 項目数	評価結果ごとの項目数				
		5.大幅に上回っている	4.上回っている	3.順調に実施している	2.十分に実施できていない	1.大幅に下回っている
市の健康福祉関連施策への積極的な協力	1		1			
合計	1		1			

③ 大項目中の主な事項

(i) 特筆される実施事項については、次のとおりとする。

- ・ 市健康福祉関連施策への協力（項目番号：62） 評価：4

市内の医療従事者に対する新型コロナワクチンの集団接種時には、医療従事者を派遣するなどの協力を行うとともに、下関保健所等と連携し、新型コロナウイルス感染症への対応を行っている。また、市から下関感染対策チームへの派遣要請を受け、市内9施設へ感染管理認定看護師の派遣を行った。

(ii) 指摘事項 なし

(3) 小項目評価

別添「地方独立行政法人下関市立市民病院 令和3年度(第10期事業年度)
に係る業務実績に関する評価結果 [小項目]」のとおり

地方独立行政法人下関市立市民病院
令和3年度（第10期事業年度）に係る
業務実績に関する評価結果〔小項目〕

令和4年(2022年)8月

下 関 市

I. 下関市立市民病院の概要

1. 現況

(1) 法人名 地方独立行政法人下関市立市民病院

(2) 所在地 下関市向洋町一丁目13番1号

(3) 役員の状況

(令和4年3月31日現在)

役職	氏名	備考
理事長	田中 雅夫	院長
副理事長	上野 安孝	副院長
理事	坂井 尚二	副院長
	吉田 順一	副院長
	池永 博文	経営担当
(非常勤)	弘山 直滋	診療担当
(非常勤)	山口 典子	看護師教育担当
監事 (非常勤)	中谷 正行	弁護士
(非常勤)	堀川 雅史	税理士

(4) 設置運営する病院

病院名	下関市立市民病院
主な役割及び機能	○急性期医療を担う地域における中核病院 ○救急告示病院 ○臨床研修指定病院 ○災害拠点病院 ○地域医療支援病院
所在地	〒750-8520 下関市向洋町一丁目13番1号
開設年月日	昭和25年3月20日 (地方独立行政法人設立：平成24年4月1日)

許可病床数	382床 (一般376床、感染症6床)
診療科目	内科、血液内科、腎臓内科、糖尿病内分泌代謝内科、リウマチ膠原病内科、アレルギー科、緩和ケア内科、ペインクリニック内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、精神科、小児科、外科、消化器外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、整形外科、リハビリテーション科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、乳腺外科、救急科、病理診断科、歯科、歯科口腔外科
敷地面積	27,742.68㎡
建物規模	本館 鉄筋コンクリート7階建 延べ床面積 26,351.41㎡ 新館 鉄筋コンクリート地下1階付4階建 延べ床面積 3,598.56㎡

(5) 職員数 507人 (令和4年3月31日現在)

(内訳) 医師 64人 看護師 291人
医療技術員 99人 事務員 53人

2. 下関市立市民病院の基本的な目標等

下関市立市民病院は下関医療圏において、急性期医療を担う下関地域の中核病院として、地域の医療機関及び下関市と連携し、地域医療はもとより、市民のニーズに応じた救急医療及び高度医療等を提供し、市民の健康の維持及び増進に寄与するため、基本理念に「安心の優しい医療を提供し、市民から信頼される病院を目指します」を掲げ、次に掲げる医療を目指している。

【基本理念】

「安心の優しい医療を提供し、市民から信頼される病院を目指します」

<基本方針>

- 市民のニーズに応じた最善の医療を提供します。
- 重点診療項目として、悪性疾患、救急及び生活習慣病に取り組みます。
- 安定した健全な病院経営を目指します。

II. 全体的な状況（総括と課題）

下関市立市民病院は、下関医療圏において地域医療への役割をより一層推進することを基本的な目標とし設立された法人であり、市から示された中期目標に沿った中期計画を実施することで市立病院としての使命を継承するとともに、法人化の最も大きな特徴を生かした民間的経営手法により安定した経営基盤を構築し、急性期を担う中核病院として市民のニーズに応じた医療を提供し、市民の健康維持及び増進に寄与することが求められている。

地方独立行政法人化後10年目を迎え、第3期中期計画（令和2年度～令和5年度）の2年目となる令和3年度においては、市立病院に求められる役割を果たしていくため、年度計画に位置付けた事業の推進に努めた。しかしながら、前年度から引き続き全国的な新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、年度計画に掲げた目標を計画的に実施できない項目があるなど厳しい状況となった。

令和3年度の主な取組としては、令和2年度から引き続き院内の新型コロナウイルス対策本部を中心に、第二種感染症指定医療機関・新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、下関保健所と連携を図りながら、感染患者やその疑いのある者の受入れを行うとともに、院内での感染防止に努めた。

また、1年延期となっていた公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価の更新認定を得るため、療養環境の整備や各種手順や基準の整備等、病院全体で医療の質改善活動に取り組んだ。その結果、前回は上回る高評価をもって認定証の交付を受けることができた。

当院の役割である高度急性期・急性期医療を提供しつつ、当院登録医が所属する医療機関や在宅医療を提供する医療機関との連携及び情報共有に努め、地域連携の指標の一つとされる紹介率・逆紹介率については、新型コロナウイルス感染症の影響下においても、ともに計画値に近い実績を上げる結果となった。また、地域医療支援病院として、地域医療研修会を14回（要件は12回。うち6回がCOVID-19に関する内容）開催した。

災害医療については、平成28年3月に策定した業務継続計画（BCP）の見直しを行うとともに、院内クラスターを想定して新型コロナウイルス感染症の院内発生時における診療継続計画書を策定した。

安心・安全な医療の提供については、多職種による安全管理委員会を月1回定期的に開催するとともに、関連の委員会・部会において、情報収集や分析・改善・対策・検討を総括的に行った。また、全職員を対象とする院内研修を年2回開催し、医療安全文化の醸成を図った。

院内感染対策については、多職種による感染管理委員会を月1回定期的に開催し、院内の感染防止対策を推進するとともに、全職員を対象とする院内感染対策等の研修を年2回開催し、感染防止教育を通して職員の意識向上を図った。また、市内の医療機関及び医療従事者と連携し、感染防止対策に関する情報共有、意見交換等を行った。

教育・人材育成については、医療対話推進者の資格を2名の職員が取得したほか、クリティカルケア分野の認定看護師の資格を1名の職員が取得するなど、引き続き、各医療現場での人材育成を行った。また、医療従事者を志す学生等の実習については、感染防止に配慮した上で、可能な限り医学生、看護学生、コメディカルの学生のほか、救急救命士等の実習を受け入れた。

様々な部門の事務作業の負担軽減を図るため、昨年度に立ち上げた「RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）化推進プロジェクトチーム」により、単純

事務作業等の自動化を継続して取り組んだ。

令和4年度の診療報酬改定では、関係部署との調整を図りながら、新たな加算や主要な施設基準の変更等について事前の情報収集に努め、漏れのないよう準備を進めた。

DPCの包括請求に大きく影響する機能評価係数Ⅱについては、令和2年度から据え置かれた令和3年度0.1196から令和4年度0.1369と前年度比14.5%の増となり、全国1,501病院の順位は80位（県内3位、市内1位）と順位を上げる結果となった。

地域医療構想に関しては、書面開催ではあったが、下関医療圏地域医療構想調整会議が開催され、地域医療構想の実現に向けて「重点支援区域」の選定を受けるための手続を行うことが協議され、令和4年3月に山口県より国に対して申請を行い、令和4年4月に下関構想区域が重点支援区域に選定された。今後も、下関市と連携を密にして、下関医療圏の基幹病院として必要な診療規模や果たすべき役割などの検討を行っていききたい。

診療面では、入院延べ患者数は前年比4.5%増の90,762人、外来延べ患者数は前年比0.2%増の113,170人となった。新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中、いずれも微増となったが、他院からの紹介患者数は前年比2.1%と2年連続の減少となった。この要因としては、市民における医療機関の受診控えや、市内の医療機関関係者との対面での交流が減ったことによる影響と考えられる。

経営面では、新型コロナウイルス感染症による影響が大きく、方針決定も難しい中、病院機能評価受審後すぐに総合戦略室会議を開催し、紹介患者獲得のため登録医等への訪問を計画したが、市内での感染患者の急増により訪問を中止せざるを得なかった。そのような状況下であったが、効率的な病床運営や経営改善を目的として令和元年度に立ち上げた「病床稼動調整会議」を中心にベッドコントロールの強化を図ったことにより、第4四半期の3か月において、一日平均入院患者数の目標270人を達成することができた。

入院収益は前年度比2.9%増の60億2,600万円、外来収益は前年度比2.7%増の24億6,800万円となり、その他医業収益と合わせた医業収益は86億7,100万円と前年度に比べ2億4,800万円、2.9%の増となったが、新型コロナウイルス感染症関連の補助金を含む補助金等収益は前年度比3億900万円、31.3%の減、繰出基準に基づく市からの繰入金である運営費負担金収益は前年度比1億5,800万円、17.1%の減となったため、営業収益全体では、前年度に比べ2億400万円、2.0%の減収となった。医業費用は、職員の増員に伴う人件費の増加に加え、材料費が収益の増に伴い増加したことから、前年度比2億400万円、2.1%の増となり、営業費用全体でも、前年度に比べ2億1,900万円、2.2%の増となった。損益ベースにおいては、増加した営業費用が営業収益を上回ったため、2年連続での黒字計上から1億4,800万円の赤字計上となった。一方、資金ベースでは、令和2年度末から1億1,700万円増の15億3,700万円となっている。今後も引き続き資金保有額を注視し留保資金の確保に努める。

施設面においては、非常用蓄電池設備や電話交換機設備の改修など老朽化した施設・設備の工事を行ったが、新型コロナウイルス感染症に起因する半導体不足により一部の工事（電話交換機設備改修工事）が工期延長となった。

今後の課題としては、新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じて、制限されている病院機能の回復に努めつつ、引き続き、市民病院として求められている医療の提供に努めるとともに、効率的で効果的な病院運営の実現を目指す。

また、令和6年度からスタートする「医師の働き方改革」の推進に対応しながら、医師をはじめとする医療従事者の負担軽減への取組を進め、全ての職員にとって安心・安全に働ける職場づくりに努めていく。

III. 項目別の状況

中期目標	<p>第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>1 市民病院が担う役割</p> <p>(1) 診療機能等の充実</p> <p>ア 高度医療及び専門医療の充実 下関地域の中核的な医療機関として、他の医療機関では行うことが困難な高度医療を提供すること。また、地域の医療機関との連携及び役割分担を図り、専門的な医療を提供すること。</p> <p>イ がん医療の充実 患者に最適な医療を提供するため、がん診療機能の高度化及び専門化を図るとともに、地域の医療機関と連携し、緩和ケアの充実を図ること。また、がんに関する相談体制の充実を図ること。</p> <p>ウ 救急医療の取組 地域の医療を守るため、二次救急医療機関として救急搬送の受入体制を確保するとともに、地域の医療機関との連携の充実を図ること。</p> <p>エ 予防医療の充実 地域全体の健康水準を高めるため、生活習慣病をはじめとした各種疾病の早期発見、早期治療を推進し、予防医療を充実させること。</p>
------	--

No.	中期計画	年度計画	法人の自己評価		下関市の評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	コメント
第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置						
1 市民病院が担う役割						
(1) 診療機能等の充実						
1	・下関医療圏における高度急性期・急性期医療を担う病院としての役割を果たし、DPC対象病院としての診療情報データの比較分析を行うことにより、医療の質の向上に努める。	・高度急性期・急性期医療が提供できるよう、DPCデータなどの診療情報データを分析し、他院とのベンチマークを行うことにより、急性期病院としての機能の充実に努める。	DPCコーディング委員会を年5回開催し、多職種が参加することにより適切なコーディングについての検討を行った。新型コロナウイルス感染症の影響により医療業界全体の動向が読めない中、他院との比較や前年度との比較などが難しい状況であったが、令和4年度の機能評価係数Ⅱは0.1369と前年度から0.0173ポイント増加し、DPC標準病院群の全国1,501病院(令和2年度1,519病院)の中で80番目(令和2年度104番目)であった。なお、県内では3番目(令和2年度2番目)、市内では1	4	5	<p>評価区分相違 4≠5</p> <p>令和4年度の機能評価係数Ⅱについて、前年度0.1196から0.1369と前年度比14.5%の増となり、DPC標準病院群の全国での順位を大きく上げ、過去最高の順位となっている。</p> <p>このことは、コロナ禍の中であっても、医療の質の向上のため、法人が急性期病院としての機能の充実に取り組んだ結果と言え、高く評価できることから、評価区分を5「年度計画を達成し、明らかにそれを上回るレベル」とする。</p>

			番目（令和2年度同位）となった。 （令和3年度の機能評価係数Ⅱは、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の係数を引き継いでいる。）			○D P C 標準病院群の全国順位 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>機能評価係数Ⅱ (順位/病院数)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>0.0738 (186/1,446)</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>0.0704 (264/1,442)</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>0.1226 (95/1,493)</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>0.1215 (104/1,490)</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>0.1196 (104/1,519)</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>0.1369 (80/1,501)</td> </tr> </tbody> </table>	年度	機能評価係数Ⅱ (順位/病院数)	H28	0.0738 (186/1,446)	H29	0.0704 (264/1,442)	H30	0.1226 (95/1,493)	R1	0.1215 (104/1,490)	R2	0.1196 (104/1,519)	R4	0.1369 (80/1,501)
年度	機能評価係数Ⅱ (順位/病院数)																			
H28	0.0738 (186/1,446)																			
H29	0.0704 (264/1,442)																			
H30	0.1226 (95/1,493)																			
R1	0.1215 (104/1,490)																			
R2	0.1196 (104/1,519)																			
R4	0.1369 (80/1,501)																			
2	・市民のニーズが多い新生物系（悪性腫瘍など）、循環器系や筋骨格系の疾病について、市民病院としての高度医療に取り組む。	・市民ニーズの多い新生物系（悪性腫瘍など）、循環器系や筋骨格系の疾病について、市民病院としての高度医療に取り組む。	前年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、入院・外来ともに患者数が大幅に減少し、手術件数、外来化学療法実施件数なども落ち込んでいる。 皮膚・排泄ケア認定看護師を中心に、ストーマ外来で人工肛門・人工膀胱造設後の日常生活が快適に送れるようケアを行った。	3	3	前年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの指標で計画値を大きく下回ったものの、手術件数、消化管内視鏡治療件数については前年度実績を上回ったことを勘案し、法人と同様の評価とする。														
3	・緩和ケア病棟の活用により、患者の苦痛を和らげることのできる環境を整えとともに、がん患者に対しての相談体制の充実を図る。	・緩和ケア病棟の活用により、治療中の患者の苦痛を和らげることのできる環境を整える。	開設から6年目となる緩和ケア病棟においては、緩和ケア認定看護師を中心に、多職種と連携をとり、ケアの質の向上に取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症による面会制限などの影響もあり、延べ入院患者数については、前年度に比べ827人減（令和元年度比947人減）となったが、新入院患者数については、前年度に比べ6人増（令和元年度比8人増）となった。 引き続き、患者の要望に応え、緩和ケア病棟の調理室で調理を行い、食事による精神的苦痛の緩和を図った。 ○緩和ケア病棟病床稼働率：65.0%	3	3															

			(R2実績：76.3%)			
4		・がん患者に対しての就労支援など、がん相談体制の充実を図る。	相談件数は、前年度および計画値を若干下回る結果となった。なお、がん登録や相談件数の減少については、新型コロナウイルス感染症による受診控えや検診控えの影響が大きいと思われる。	3	3	相談件数は、前年度及び計画値を若干下回る結果となったが、新型コロナウイルス感染症の影響によるものもあると考えられることから、法人と同様の評価とする。
5	・医師等の人的資源を確保し、輪番制による当番日はもとより、当番日以外の日においても断らない救急体制の整備に努める。	・医師等の人的資源を確保し、救急患者の積極的な受入を行うことにより、輪番制による当番日はもとより、当番日以外の日においても断らない救急体制の整備に努める。	救急科3人(1人兼務)の医師を中心に、輪番制による当番日の救急患者の受入を行った。引き続き、整形外科領域での輪番制による受入を行うとともに、脳外科領域による受入れも行った。小児科領域については、医師の退職等に併い令和2年度より輪番をはずれることとなっている。 下関市消防局及び長門市消防本部から救急救命士延べ17人、気管挿管実習1人(新型コロナウイルス感染症の影響により、うち1人は中止)を受け入れ、地域の救急医療のレベルアップに貢献した。	3	3	当番日における受入不能症例件数は、計画0件に対し27件あったが、常勤医がいない診療科の患者や軽症と判断され一次救急など他院の受診を勧めたケース、他患者対応中による受入困難事例など、やむを得ない事例と判断できる。 また、休日及び夜間の二次救急医療において、引き続き、通常の4病院による病院群輪番制とは別に、整形外科領域及び脳神経外科領域での3病院による輪番制による受入れを行ったことは評価できる一方で、小児科領域については輪番を外れている。 上記を総合的に判断して、法人と同様の評価とする。
6	・引き続き、健診センターの実施体制を充実させるとともに、生活習慣病をはじめ各種疾病に関する知識の普及・啓発を行うことにより、予防医療の充実を努める。	・健診センターの実施体制を充実させ、人間ドックや企業健診、各種検診など健診サービスの質向上を図る。	前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響による高齢者の人間ドックの受診控えはあったものの、現役世代に関しては午後の健診を実施するなど積極的に受け入れを行ったため、件数が大幅に増加した。 ○健診件数(人間ドック含む)：3,852件 (R2実績：3,451件)	4	4	午後の健診希望者増加に対応した取組であり、実施に当たり、医師及び看護師を含むスタッフの確保、午前の部終了後の清掃・除菌・消毒等、受入体制の整備に努め、健診件数の増加につなげたことは評価できる。

7		<p>・糖尿病教室、ビュッフェ de 糖尿病食、楽塩教室、そらまめ教室等は新型コロナウイルス感染症流行下での開催方法を工夫し、生活習慣病をはじめ各種疾病に関する知識の普及・啓発を行う。</p>	<p>新型コロナウイルス感染防止を第一優先として、対面で行う糖尿病教室などの勉強会については、前年度に引き続きやむを得ず開催を見合わせた。また、オンラインによる開催も検討したが、受講対象者は高齢者が多いことなどもあり実施は困難な状況である。そのような状況下においても減塩レシピなどをホームページで公開するなどの取組を行っている。</p> <p>禁煙外来、フットケア外来については、引き続き外来診療において実施することができた。なお、禁煙外来については、全国的に禁煙治療薬が不足しているため、積極的な禁煙治療が難しい状況が続いている。</p> <p>○禁煙外来受診者数：20人 (R2実績：22人)</p> <p>○フットケア外来受診者数：92人 (R2実績：99人)</p>	3	3	
---	--	--	---	---	---	--

指 標	令和元年度 見込	令和5年度 目標	(中期計画指標)				
			令和2年度 実績	令和3年度 計画	令和3年度 実績	前年度 との差	計画 との差
手術件数	2,500件	2,700件	1,957件	2,500件	2,088件	+131件	△412件
冠動脈形成術 (PCI)実施件数	175件	200件	136件	160件	128件	△8件	△32件
消化管内視鏡 治療件数	410件	450件	300件	480件	359件	+59件	△121件
外来化学療法 実施件数	2,200件	2,400件	2,408件	2,400件	2,203件	△205件	△197件
がん登録件数	680件	700件	643件	700件	586件	△57件	△114件
がん相談件数	650件	700件	1,013件	1,000件	925件	△88件	△75件
救急搬送受入件数	2,500件	2,700件	2,111件	2,300件	2,350件	+239件	+50件
救急患者数	5,400人	6,000人	4,460人	5,400人	5,024人	+564人	△376人
当番日における 受入不能症例件数	10件	0件	18件	0件	27件	+9件	+27件
健康教室参加者数	100人	150人	—	130人	—	—	—

※がん登録件数については、報告機関へ1年遅れで症例数を報告するため、R3年度実績は、R3年度内に報告したR2年1月から12月までの症例数を記載。

中期目標	<p>第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>1 市民病院が担う役割</p> <p>(2) 地域医療への貢献</p> <p>ア 基幹病院への参画 山口県地域医療構想に基づき、下関医療圏地域医療構想調整会議が示した基幹病院に参画すること。</p> <p>イ 地域医療支援病院としての役割強化 紹介患者に対する医療の提供や救急医療の提供等、地域医療支援病院としての役割を果たすとともに、総合診療の部門を持ち、プライマリ・ケアの研修・指導を実施することが可能な体制を整備すること。また、在宅医療の提供の推進を支援する病院として、在宅医療を提供する医療機関と連携し、緊急入院を希望する患者の受入れを行うこと。</p> <p>ウ 地域医療の担い手の育成・支援</p> <p>(ア) 将来における地域医療の担い手の育成 医学生や看護学生をはじめ医療従事者を志す学生が医療の現場において知識や技術を学べるよう、積極的に実習生の受入れを行うとともに、</p>
------	---

	<p>中高生に対する職業体験等を実施し、将来における地域医療の担い手の育成に努めること。</p> <p>(イ) 潜在看護師への支援</p> <p>看護師免許を保有しているが医療現場を離れている潜在看護師に対し、看護師としての基礎的な知識・技術・態度等を習得、再認識できる看護師実習研修を実施することで、再就職を支援すること。</p>
--	--

No.	中期計画	年度計画	法人の自己評価		下関市の評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	コメント
第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置						
1 市民病院が担う役割						
(2) 地域医療への貢献						
8	<p>・山口県地域医療構想に基づき、下関医療圏地域医療構想調整会議において示された基幹病院へ参画するにあたり、必要な事項の検討を行う。</p>	<p>・下関医療圏地域医療構想調整会議の動向を踏まえ、下関医療圏の基幹病院として必要な診療規模や果たすべき役割などの検討を行う。</p>	<p>下関医療圏地域医療構想調整会議については、新型コロナウイルス感染症の影響により、書面での開催ではあったが参加をし、議事についての検討を行った。その結果、地域医療構想の実現に向けて「重点支援区域」の選定を受けるため、令和4年3月に山口県より国に対して申請を行い、令和4年4月に下関構想区域が重点支援区域に選定をされた。</p> <p>今後も、下関市と連携を密にして、下関医療圏の基幹病院として必要な診療規模や果たすべき役割などの検討を引き続き行っていく。</p>	3	3	
9	<p>・地域連携室の機能充実を図り、紹介患者が当院にかかりやすい環境の整備に努めるとともに、入院患者が在宅や地域の医療機関にスムーズに退院できるよう相談窓口の充実を努める。</p>	<p>・地域連携室の機能充実を図り、紹介患者が当院にかかりやすい環境の整備に努めるとともに、入院患者が在宅や地域の医療機関にスムーズに退院できるよう、入院時から積極的に退院支援に努める。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、例年行っていた地域医療連携の会は、令和2年度から引き続き開催を見合わせざるを得なかったが、顔の見える連携交流会については、訪問看護ステーションを対象に1回ではあるが開催することができた。</p> <p>市民に対しては、病院ホームページにおいて受診控えによる病気の重篤化などへの</p>	3	3	<p>新型コロナウイルス感染症の影響もある中、前年度に開催を見合わせていた訪問看護ステーションを対象とした顔の見える連携交流会を開催するなど、関係機関との連携に努めていることを確認した。</p> <p>また、紹介率・逆紹介率について、このような状況下で計画値に近い実績を上げたことは評価できる。</p>

			注意喚起を行い、当院登録医などのかかりつけ医への受診を促し、登録医に対しては、積極的に連携強化を図るため患者紹介を依頼する文書の送付などを行った。また、引き続き、下関地域医療連携情報システム(奇兵隊ネット)に参加することにより病診連携を推進した。			
10		・下関医療圏の地域医療支援病院として、登録医制度を活用し、かかりつけ医との連携をより一層強化する。	<p>新型コロナウイルス感染防止のため、地域の医療従事者への研修会開催方法などを検討し、オンラインによる研修会を地域医療支援病院として14回(要件:12回)開催した。そのうち6回は、市内唯一の第二種感染症指定医療機関としての使命を果たすべくCOVID-19についての研修会を開催した。</p> <p>○登録医数:170施設(231人)</p>	4	4	院内を含む地域の医療従事者352名に対し、市内唯一の第二種感染症指定医療機関として、COVID-19についての研修会6回を含む計14回のオンライン研修を開催し、地域の医療機関との連携強化を推進したことは大いに評価できる。
11	・総合診療の部門を持ち、プライマリ・ケアの研修・指導を実施することが可能な体制の整備に努める。	・総合診療部門の設置に係る医師確保等の体制整備について、検討を進める。	総合診療部門の設置には至っていないが、大学医局への働きかけを行い、独り診療科であった糖尿病内分泌代謝内科とリウマチ膠原病内科に、それぞれ令和4年4月より、新たに2名と1名の常勤医師を獲得することができた。	3	3	
12	・在宅で療養を行っている患者が病状の急変等により入院が必要となった場合に、在宅医療を提供する医療機関と連携し、円滑な入院受入れを行う。	・在宅療養を行っている患者が病状の急変等により入院が必要となった場合に、在宅医療を提供する医療機関と連携し、円滑な入院受入れを行う。	新型コロナウイルス感染症の影響により、入院を希望する患者自体が大幅に減少したこともあり、在宅患者緊急入院診療加算算定件数は計画値を大幅に下回る結果となったが、地域医療支援病院として共同利用できる機器や病床を確保し、令和元年度に2台体制となったMRIについては、共同利用件数が令和元年度に比べ約2.2倍と	3	3	

			<p>なった。</p> <p>○MRIの共同利用件数：602件 (R2実績:479件) (R1実績:271件)</p>																																							
13	<p>・医学生や看護学生をはじめ医療従事者を志す学生の実習受入れを積極的に行うとともに、中高生に対する職業体験等を実施し、病院全体として将来における地域医療の担い手の育成に努める。</p>	<p>・医学生や看護学生をはじめ医療従事者を志す学生の実習受入れを積極的に行うとともに、中高生に対する職業体験等を実施し、将来における地域医療の担い手の育成に努める。</p>	<p>新型コロナウイルス感染防止のため、職業体験のイベントは開催できなかったが、病院ホームページの看護部の職場紹介のページなどを充実させることで、医療や看護職のPRに努めた。</p>	3	3																																					
14	<p>・引き続き、復職支援セミナーを開催するなど、潜在看護師の再就職を支援する。</p>	<p>・復職支援セミナーを開催するなど、潜在看護師の再就職を支援する。</p>	<p>新型コロナウイルス感染防止のため、積極的な復職支援セミナーの開催が難しい中で、山口県ナースセンターが主催する「看護師再チャレンジ研修」への協力機関として登録し、希望者1名に対して2日間の研修を実施した。</p>	3	3																																					
		(中期計画指標)																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>令和元年度 見込</th> <th>令和5年度 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>70%</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>120%</td> <td>130%</td> </tr> <tr> <td>在宅患者緊急入院 診療加算算定件数</td> <td>150件</td> <td>200件</td> </tr> </tbody> </table>		指標	令和元年度 見込	令和5年度 目標	紹介率	70%	80%	逆紹介率	120%	130%	在宅患者緊急入院 診療加算算定件数	150件	200件	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>令和2年度 実績</th> <th>令和3年度 計画</th> <th>令和3年度 実績</th> <th>前年度 との差</th> <th>計画 との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>79.8%</td> <td>80%</td> <td>77.1%</td> <td>△2.7%</td> <td>△2.9%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>158.9%</td> <td>150%</td> <td>142.6%</td> <td>△16.3%</td> <td>△7.4%</td> </tr> <tr> <td>在宅患者緊急入院診療加算 算定件数</td> <td>53件</td> <td>140件</td> <td>49件</td> <td>△4件</td> <td>△91件</td> </tr> </tbody> </table>					指標	令和2年度 実績	令和3年度 計画	令和3年度 実績	前年度 との差	計画 との差	紹介率	79.8%	80%	77.1%	△2.7%	△2.9%	逆紹介率	158.9%	150%	142.6%	△16.3%	△7.4%	在宅患者緊急入院診療加算 算定件数	53件	140件	49件	△4件	△91件
指標	令和元年度 見込	令和5年度 目標																																								
紹介率	70%	80%																																								
逆紹介率	120%	130%																																								
在宅患者緊急入院 診療加算算定件数	150件	200件																																								
指標	令和2年度 実績	令和3年度 計画	令和3年度 実績	前年度 との差	計画 との差																																					
紹介率	79.8%	80%	77.1%	△2.7%	△2.9%																																					
逆紹介率	158.9%	150%	142.6%	△16.3%	△7.4%																																					
在宅患者緊急入院診療加算 算定件数	53件	140件	49件	△4件	△91件																																					

中期目標	<p>第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>1 市民病院が担う役割</p> <p>(3) へき地医療拠点病院としての役割強化</p>
------	---

	へき地の医療を守るため、引き続き下関市立豊田中央病院と連携を図るとともに、へき地医療拠点病院として求められる巡回診療、へき地の医療機関への医師派遣及び代診医派遣を積極的に行うこと。
--	--

No.	中期計画	年度計画	法人の自己評価		下関市の評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	コメント
第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置						
1 市民病院が担う役割						
(3) へき地医療拠点病院としての役割強化						
15	・市立豊田中央病院と連携を図るとともに、へき地（蓋井島）への巡回診療を継続するなど、へき地医療拠点病院として求められる支援を積極的に行う。	・へき地（蓋井島）への巡回診療を継続するとともに、市立豊田中央病院には医師を派遣するなど連携を図り、へき地医療への支援を積極的に行う。	蓋井島には計画的な巡回診療を実施し、豊田中央病院へは月2回脳神経外科の医師を診療に派遣するなど、へき地医療を支えた。	4	4	

中期目標	<p>第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>1 市民病院が担う役割</p> <p>(4) 災害時及び感染症流行時における対応</p> <p>ア 災害時における対応</p> <p>災害発生時に、必要な医療を提供するため、設備や備蓄の充実を図るとともに、患者の受入れや医療チームの派遣等の救護活動を積極的に実施すること。併せて、医療機能の維持・早期回復のためのマニュアルや業務継続計画の充実に努めること。</p> <p>イ 感染症流行時における対応</p> <p>公衆衛生上重大な健康被害が発生する感染症流行時に、第二種感染症指定医療機関として、市、関係機関及び関係団体と協力して迅速な対応を行うこと。</p>
------	--

No.	中期計画	年度計画	法人の自己評価		下関市の評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	コメント
第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置						
1 市民病院が担う役割						
(4) 災害時及び感染症流行時における対応						

16	<p>・災害拠点病院として、平時より県内の他の災害拠点病院及び市消防本部と連携を密にし、災害訓練に参加するとともに、災害発生時には迅速かつ効果的に災害派遣医療チーム（DMAT）の派遣を行う。併せて、医療機能の維持・早期回復のためのマニュアルや業務継続計画の充実に努める。</p>	<p>・災害拠点病院として、平時より県内の災害拠点病院及び市消防本部と連携を密にし、災害訓練に参加するとともに、災害発生時には迅速かつ効果的に災害派遣医療チーム（DMAT）の派遣を行う。</p>	<p>火災や大規模災害を想定し、災害対策マニュアルを整備している。消防訓練（消火・通報・避難）については、新型コロナウイルス感染症の影響により実施することができなかった。令和4年度は計画的に実施する予定としている。</p> <p>また、災害派遣医療チーム（DMAT）についての技能維持研修は、オンラインと集合研修のセット研修に7名が参加し、技術向上に努めた。</p> <p>○防災訓練実施回数：0回 ○消防訓練実施回数：0回 ○DMAT災害訓練参加回数：0回</p>	3	3	
17		<p>・新型コロナウイルス感染症対策も踏まえた業務継続計画（BCP）の見直しを行い充実に努める。</p>	<p>大規模災害を想定し、平成28年3月に業務継続計画（BCP）を策定し、令和3年10月には計画の見直しを行った。</p> <p>また、令和3年12月に、院内クラスターを想定して新型コロナウイルス感染症の院内発生時における診療継続計画書を策定し、感染対策の強化に努めている。</p>	4	4	<p>年度計画どおり、業務継続計画の見直しを行ったほか、感染対策強化のため、診療継続計画書を策定したことを確認した。</p>
18	<p>・第二種感染症指定医療機関として、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき入院が必要な感染症患者を受け入れるとともに、新型インフルエンザ等の感染症の流行時においては、市の要請に応じ迅速な対応を行う。</p>	<p>・第二種感染症指定医療機関として、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき、特に新型コロナウイルス感染症に対しては、院内の対策本部を中心に関係機関と連携を密にしながら、重点医療機関として病床を確保し、感染症患者の受け入れ等、迅速な対応を行う。</p>	<p>感染管理委員会を月1回定期開催して院内感染防止対策を推進した。</p> <p>院内感染対策の研修及び抗菌薬適正使用の研修を全職員に対し年2回開催し、感染防止教育を行うことで職員の意識を高めた。</p> <p>感染防止対策加算1及び感染防止対策地域連携加算を届け出た連携医療機関と年4回の合同カンファレンス（web会議を含む。）と2回の相互ラウンドを実施し、感染防止対策に関する情報共有や意見交換、相</p>	5	5	<p>令和2年2月から新型コロナウイルス対策本部を設置し、保健所との連携を密にして、第二種感染症指定医療機関及び新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、下関地域における感染防止対策に大きく貢献している。</p> <p>また、感染症に対する職員の意識醸成や連携医療機関との情報共有にも努めている。</p> <p>院内クラスター発生時には保健所と連携して迅速に対応し、拡大することなく</p>

			<p>互評価を行った。</p> <p>地域の医療従事者に対しては、地域医療研修会として「COVID-19」についてオンライン研修会を6回実施した。また、地域の医療機関ネットワーク（感染対策ネットワーク下関）のメーリングリストにより、新型コロナウイルス感染防止対策等について情報提供を行った。</p> <p>令和2年2月から引き続き、新型コロナウイルス対策本部を設置し、保健所との連携を密にし、第二種感染症指定医療機関であることに加え、新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、入院患者の受入、他病院からの相談などに対応するなど、下関地域における感染防止対策に貢献している。また、院内クラスター発生時には保健所と連携して迅速に対応し、拡大することなく早期に終息した。</p>		<p>早期に終息させることができたことは評価できる。</p> <p>引き続き、下関地域における新型コロナウイルス感染症の対応について、中心となって実施していただくことを期待する。</p>
--	--	--	---	--	---

中期目標	<p>第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>2 患者サービスの向上</p> <p>(1) 患者中心のチーム医療の充実</p> <p>十分な説明に基づくインフォームド・コンセントを徹底するなど、常に患者の視点に立ち、患者の権利を尊重した「患者中心のチーム医療」の充実を図るとともに、患者に必要とされる相談支援体制等の強化を図ること。</p>
------	--

No.	中期計画	年度計画	法人の自己評価		下関市の評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	コメント
第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置						
2 患者サービスの向上						
(1) 患者中心のチーム医療の充実						
19	・患者自らが受ける医療を十	・インフォームド・コンセ	患者の同意を得る際には、医療者側（主	4	4	医療従事者の同席率は計画値に及ばな

	分理解し、納得の上で自分にあった治療法を選択できるようインフォームド・コンセントの徹底を図るとともに、患者の安全確保に万全の対応を行うことができるよう医療安全管理体制の充実に努める。	ント（説明と同意）については、患者が納得して治療を受けられるよう十分に説明するとともに、患者・家族に寄り添うよう看護師を中心とした医療従事者が同席し、意思決定の支援を行う。	として看護師）が同席し、同席者のサインについても徹底した。やむを得ず同席できなかった場合は、意思決定支援者として患者家族の認識を確認し、患者や家族の言葉でカルテに記載している。			いものの 99.8%と非常に高く、やむを得ず同席できなかった場合でも、患者や家族の認識を確認してカルテに記載しており、意思決定支援に努めているため、法人と同様の評価とする。
20		・「医療安全管理マニュアル」により、患者の安全確保に万全の対応ができるように医療安全管理体制の充実に努める。	<p>医療安全については、安全管理委員会を毎月開催するとともに、関連の委員会・部会において、情報収集や分析・改善・対策・検討を総括的に行った。</p> <p>病院機能評価受審に向けて、病棟の配薬環境の改善（キャビネットの購入、整備）や、各マニュアルの見直しを行った。</p> <p>また、医療安全対策加算1の施設基準に基づく院内研修会だけでなく、臨床倫理に関することや、働き方改革に向けた意識を育成するための研修会など、外部講師による院内研修会を開催した。</p> <p>また、引き続き、良好な医療安全文化の醸成に必要な対策を検討するため、日本医療機能評価機構が実施する調査に参加し、院内各部署の医療安全文化を測定し、各部署の所属長に次年度の医療安全文化の改善活動のきっかけとなるよう、各部署の結果をフィードバックした。</p> <p>○医療安全対策加算1に基づく職員研修会参加率</p> <p>前期：100%（R2実績：100%） 後期：100%（R2実績：98.0%）</p>	5	5	安全管理委員会の毎月開催や環境改善、各マニュアルの見直しを実施し、また、施設基準に基づく院内研修会以外にも各種研修会を実施するなど様々な取組を行い、医療安全管理体制の充実に努めているため、法人と同様の評価とする。

21	<p>・患者又はその家族からの医学的質問及び生活並びに入院中の不安等の様々な相談に対応するよう患者サポート体制の充実に努める。</p>	<p>・医療対話推進者の養成を行うなど、患者相談窓口の充実に努めるとともに、入院を予定している患者が安心して入院医療を受けられるよう入院支援センターの機能充実に努める。</p>	<p>患者相談室では、医師、看護師、公認心理師、事務担当者を配置し、医療安全対策室をはじめとする院内関係部署とともに週1回のカンファレンスにおいて、情報共有及び対応方針の見直しなどを行うことで、相談体制の質向上に努めた。また、「患者相談窓口」の設置場所がわかりやすいよう、室の入口に大きく掲示する工夫を行った。</p> <p>患者相談窓口以外で対応した相談内容についても患者相談室で把握できるよう専用システムへ入力することを周知した。更に、病院機能評価受審に向けてマニュアル等の更新も行った。医療対話推進者を養成するため、患者相談室職員及び医療安全対策室員各1名が令和2年度から医療対話推進者養成セミナーを受講し、令和3年度には基礎編の受講を終え資格を取得した。</p> <p>入院支援センターにおいては、予定入院患者に対する入院支援実施率向上を目的（組織目標：97%）とし、実施率100%を達成することができた。また、当日入院患者168名（令和2年度128名）の入院支援も行い、病棟業務の軽減を図った。</p>	5	5	<p>令和2年度から医療対話推進者養成セミナーを受講していた2名が資格を取得したほか、設置場所標示の工夫、専用システムによる相談内容の共有など患者相談窓口の充実に図ったことは評価できる。</p> <p>また、予定入院患者に対する入院支援を100%実施するなど、患者のサポートに努めたことを確認した。</p>
22	<p>・専門スタッフがそれぞれの知識を持ち寄り、総合的かつ専門的なチーム医療を実践することにより、患者に最適な治療方針を検討する。</p>	<p>・専門スタッフがそれぞれの知識を持ち寄って、総合的、専門的な診療を行うことにより、患者に最適な治療方針を検討する。</p>	<p>医師、看護師、コ・メディカル、MSWなど、多職種が参加する各種カンファレンスを定期的開催し、各チームによる専門的な診療を行った。</p> <p>また、前年度に引き続き、毎朝（平日）、新型コロナウイルス対策本部において、本部員をはじめとする多職種によるカンファレンスを開催し、情報共有を図っている。令和3年度からは、新型コロナウイルス感染症患者の退院支援を目的に、多職種によ</p>	4	4	<p>新型コロナウイルス感染症患者の退院支援のため、多職種による退院支援スタッフカンファレンスを定期的開催するなど新たな取組を行っており、患者サービスの向上に努めている。</p>

			る退院支援スタッフカンファレンスを定期的 的に開催し、スムーズな退院や他院との連 携が図れるよう努めている。																														
23	・標準的かつ効率的な医療を 推進し、患者の負担軽減を図 るため、クリニカルパスの積 極的な活用に取り組む。	・クリニカルパスの最適化 に対する見直しを行うとと もに、患者用パスの充実を 図り、患者が標準的かつ効 率的な治療を受けられるよ う努める。	標準的かつ効率的な医療を推進するた めにクリニカルパスを計画的に見直しと ともに、患者が入院治療計画を明確に 把握できるよう患者用パス用紙の充実を 図った。 COVID-19の新薬が承認される度 にクリニカルパスの見直しを行い、市内 の他病院に対しても情報提供を行った。 ○クリニカルパス見直し件数：34件 (R2実績：76件) (R1実績：45件)	4	4	新型コロナウイルス感染症の影響によ り、入院患者数が減少している中、クリ ニカルパス適用件数については計画に及 ばなかったものの、クリニカルパスの定 期的な見直しのほか、診療方針の変更等 による新規作成にも注力していることを 確認した。このことについては評価でき るため、法人と同様の評価とする。																											
		(中期計画指標)																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>指 標</th> <th>令和元年度 見込</th> <th>令和5年度 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インフォームド・コンセント 時における医療従事者の同席率</td> <td>96.4%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>クリニカルパス適用件数</td> <td>3,500件</td> <td>3,700件</td> </tr> </tbody> </table>		指 標	令和元年度 見込	令和5年度 目標	インフォームド・コンセント 時における医療従事者の同席率	96.4%	100%	クリニカルパス適用件数	3,500件	3,700件	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指 標</th> <th>令和2年度 実績</th> <th>令和3年度 計画</th> <th>令和3年度 実績</th> <th>前年度 との差</th> <th>計画 との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インフォームド・コンセント 時における医療従事者の同席率</td> <td>99.3%</td> <td>100%</td> <td>99.8%</td> <td>+0.5%</td> <td>△0.2%</td> </tr> <tr> <td>クリニカルパス適用件数</td> <td>2,834件</td> <td>3,400件</td> <td>3,278件</td> <td>+444件</td> <td>△122件</td> </tr> </tbody> </table>					指 標	令和2年度 実績	令和3年度 計画	令和3年度 実績	前年度 との差	計画 との差	インフォームド・コンセント 時における医療従事者の同席率	99.3%	100%	99.8%	+0.5%	△0.2%	クリニカルパス適用件数	2,834件	3,400件	3,278件	+444件	△122件
指 標	令和元年度 見込	令和5年度 目標																															
インフォームド・コンセント 時における医療従事者の同席率	96.4%	100%																															
クリニカルパス適用件数	3,500件	3,700件																															
指 標	令和2年度 実績	令和3年度 計画	令和3年度 実績	前年度 との差	計画 との差																												
インフォームド・コンセント 時における医療従事者の同席率	99.3%	100%	99.8%	+0.5%	△0.2%																												
クリニカルパス適用件数	2,834件	3,400件	3,278件	+444件	△122件																												

中期目標	<p>第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>2 患者サービスの向上</p> <p>(2) 職員の接遇向上</p> <p>患者及びその家族並びに市民から信頼される病院であり続けるため、全ての職員が接遇の重要性を認識し、接遇の向上に努めること。</p>
------	---

No.	中期計画	年度計画	法人の自己評価		下関市の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価	コメント

第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置								
2 患者サービスの向上								
(2) 職員の接遇向上								
24	・患者満足度（CS）調査については、常に患者の視点に立ったテーマを持ち、定期的 に実施することにより、患者 ニーズを的確に把握し、患者 サービスの向上に反映させる。 特に、職員の接遇については、 研修計画により効果的な教育 を実施することで、接遇・応 対力の向上を図る。	・患者満足度（CS）調査 や院内に設置した意見箱 「みんなの声」に寄せられた 意見などをもとに、患者 サービスの向上に努める。	患者満足度調査については、入院・外来 患者を対象に例年と同じく年2回の実施を 計画していたが、新型コロナウイルス感染 防止のため、9月に入院患者のみを対象に実 施した。 「みんなの声」については毎週意見を回 収し、CS推進委員会において問題点の改善 を検討した。（「みんなの声」に寄せられた 意見：177件（R2年度：195件）	3	3	「みんなの声」に寄せられた意見につ いて、月1回開催されるCS推進委員会に おいて改善を検討し、可能なものは即時 対応し、施設・設備の改修に関する意見 については、該当部署に通達し、今後の 改修工事等に反映できるよう努めている ことを確認した。		
25		・職員の接遇については、 効果的な研修を実施するこ とで、接遇・応対力の向上 を図る。	新型コロナウイルス感染症の影響下にお いてもより多くの職員が研修会に参加でき るよう、オンデマンドによる接遇研修を同 様の内容で年8回実施し、引き続き職員の 接遇に対する資質の向上に努めた。	4	4			
		(中期計画指標)						
指 標	令和元年度 見込	令和5年度 目標	指 標	令和2年度 実績	令和3年度 計画	令和3年度 実績	前年度 との差	計画 との差
患者満足度 アンケート結果	90点	90点	患者満足度アンケート結果	—	90点	89.9点	—	△0.1点
接遇研修参加率 (委託業者含む)	37%	50%	接遇研修参加率(委託業者含む)	53%	50%	53%	±0%	+3.0%

中期目標	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 患者サービスの向上 (3) ボランティアとの連携によるサービス向上 ボランティアとの連携を図り、患者の視点に立ったサービスの向上のための取組を進めること。
------	---

No.	中期計画	年度計画	法人の自己評価		下関市の評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	コメント
第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置						
2 患者サービスの向上						
(3) ボランティアとの連携によるサービス向上						
26	・院内ボランティアを有効に活用することにより、常に市民や患者の目線に立ったサービスの向上に努める。	・院内ボランティアを有効に活用することにより、常に市民や患者の目線に立ったサービスの向上に努める。	新型コロナウイルス感染症の影響がある中で、感染防止に配慮しながら年間を通じて院内ボランティア（緩和ケアボランティアを含む。）を有効に活用し、広く取組を行っている。ボランティアの方にも院内での研修に参加してもらい、有効的な活用を図ることで、サービス向上に努めている。	3	3	

中期目標	<p>第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>3 医療提供体制の充実</p> <p>(1) 医療従事者の確保</p> <p>提供する医療水準を向上させるため、医師や看護師をはじめ、チーム医療に欠かせない多様な専門職種の人材確保に努め、魅力ある病院づくりに努めること。</p>
------	---

No.	中期計画	年度計画	法人の自己評価		下関市の評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価	コメント
第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置						
3 医療提供体制の充実						
(1) 医療従事者の確保						
27	・新専門医制度による連携病院として、大学医局との連携強化を図り、医師に選ばれる病院となるよう努める。	・新専門医制度における連携病院として、大学医局との連携強化を図り、医師に選ばれる病院となるよう努める。	令和3年度は糖尿病内科の常勤医を確保し、新たに日本糖尿病学会認定教育施設（認定教育施設Ⅱ）に認定された。その結果、令和4年4月からは、更に2名の糖尿病内科の常勤医を確保することができた。	4	4	大学医局との連携により糖尿病内科医を獲得し、このことにより認定教育施設Ⅱに認定されたことで、大学医局との更なる連携強化につながると考えられ、評価できる。

			<p>今後も若手医師が専門医を取るための病院として選ばれる礎となるよう努めていく。</p> <p>初期臨床研修医については、新型コロナウイルス感染症の流行状況に配慮しながら病院見学会を開催し、オンラインによる就職説明会にも参加するなど、医学生の受入れに努め、マッチング制度ではフルマッチには至らなかったものの基幹型4名・協力型1名を受け入れることができた。(2次募集で1名獲得し基幹型5名となったが、医師国家試験に不合格であったため、結果的に基幹型4名となった)</p>			<p>初期臨床研修医については、医学生の受入れに努めたものの、マッチング制度では不可抗力ではあるがフルマッチには至らなかった。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響により、年度計画の指標のうち学会・研究会発表件数については、計画に及ばなかったことを確認した。</p> <p>上記を総合的に判断して、法人と同様の評価とする。</p>
28	<p>・市内、県内外の看護学校との連携を図り、看護実習受入施設としての機能充実を図ることにより、引き続き新卒者の看護師の確保に努める。</p>	<p>・市内、県内外の看護学校との連携を図り、看護実習受入施設としての機能充実を図ることにより、新卒者の看護師の確保に努める。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、看護学校からの実習辞退などもあり、受入数は令和2年度より減少したが、可能な限り実習生を受け入れるとともに、看護師確保に努めた。また、新型コロナウイルス感染症の流行下においても、県内外の看護学校訪問を実施し、病院見学会への案内や卒業生の近況報告を行うことで新卒者の看護師確保に努めた。</p> <p>○看護実習生受入数：43人 (R2実績：119人)</p> <p>○新卒看護師採用数：16人 (R2実績：16人)</p>	3	3	
29	<p>・薬剤師の病棟配置や臨床工学技士の24時間体制に対応するよう、医療技術員の確保に努める。</p>	<p>・多職種における病棟配置等に対応するため、医療技術員の確保に努める。</p>	<p>薬剤師については、令和3年度中に4名退職となり、令和4年2月から「病棟薬剤業務実施加算1」を取り下げることとなったが、宿直業務については継続して実施することができた。なお、令和4年4月には、</p>	3	3	<p>「病棟薬剤業務実施加算1」については、再び加算を算定できるよう体制整備に努めていただきたい。</p> <p>臨床工学技士を1名確保し、体制を強化できたことは評価できる。</p>

			2名の新卒者を採用した。 臨床工学技士については令和3年4月に1名を採用した。今後も増員を図り24時間対応の体制整備を進めていく。			上記を総合的に判断して、法人と同様の評価とする。		
		(中期計画指標)						
指標	令和元年度 見込	令和5年度 目標	指標	令和2年度 実績	令和3年度 計画	令和3年度 実績	前年度 との差	計画 との差
学会・研究会発表件数	80件	100件	学会・研究会発表件数	25件	70件	23件	△2件	△47件
共同研究件数 (倫理研究委員会報告)	10件	15件	共同研究件数 (倫理研究委員会報告)	22件	15件	17件	△5件	+2件
初期臨床研修医 マッチング数	5人	5人	初期臨床研修医 マッチング数	5人	5人	4人	△1人	△1人
認定看護師数	10人	16人	認定看護師数	10人	12人	11人	+1人	△1人

中期目標	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療提供体制の充実 (2) 医療従事者の専門性・医療技術の向上 医療従事者の専門化及び技術の高度化を図るため、研修環境の整備や資格取得に対する支援策を充実させること。
------	---

No.	中期計画	年度計画	法人の自己評価		下関市の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価	コメント
第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置						
3 医療提供体制の充実						
(2) 医療従事者の専門性・医療技術の向上						
30	・医療職の専門性を高めるため、医師、看護師、医療技術職員など医療スタッフを、院外の研修に積極的に参加させる。	・医療職の専門性を高めるため、医師、看護師、医療技術職員などの医療スタッフを院外の研修に積極的に参加させる。	新型コロナウイルス感染症の影響により開催される研修会等も減少している中、職員のモチベーションや専門性の維持・向上を図るため、引き続き院外研修(Web研修を含む。)に参加させた。	4	4	院外研修の参加について、開催される研修会が減少している中、新型コロナウイルス感染症の影響が少なかった令和元年度の参加者数に近づけたことは評価できる。

